

同窓会長の挨拶	2
教育学部長の挨拶	4
教育学部同窓生の集いのご案内	6
平成25年度 評議会報告	8
平成24年度 同窓会活動報告	9
平成24年度 教育実践事業報告	10
平成24年度 実践論文受賞者	12
柳戸ニュース	14
平成25年度 同窓会役員	16
学生の就職状況について	17
教育現場から	18
退職・着任された教員の紹介	20
各学科同窓会の活動	21



同窓会長の挨拶

同窓会長 後藤 忠喜
昭和38年度数学科卒業

会員各位には、ご健勝にて、爽やかにご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は「岐阜大学教育学部同窓会」の活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

はからずも、会長という重責を担うこととなりました。現在まで、幾多の先輩諸氏が持てる力を結集し、築き上げてこられた私たちの同窓会でありまして、身の引き締まる思いです。

岐阜大学教育学部は、明治6年12月、大垣旧藩庁を校舎として「師範研習学校」が創設。以来、幾多の変遷を経て、やがて140年を迎えようとしています。

その間、輩出した卒業生の数はついに3万人の台にのり、「30,020名」、うち確認できている物故者が9,016名おられ、会員数2万名を超える大所帯であります。

※ただ、所在のはっきりしない会員が少なからずあり、ここ数年同窓会報と共に「所在不明者一覧表」を送付しています。お一人でも状況をお知りの方は、事務局への連絡をお願いします。

我が同窓会は、1951(昭和26)年4月、「学芸学部同窓会」として発足しています。学芸学部の卒業生だけでなく、岐阜師範学校同窓会・岐阜青年師範学校教友会(含前身)をそのまま引き継ぎ、新たな同窓会としてのスタートでした。発足当時の卒業生は、「12,600余名」と記されています。

さて、この際、私自身が知りたいと思っていました「教育学部の歴史」について、主だったところを挙げてみます(下図)。



【岐阜県師範学校】

参考文献
 ・岐阜大学の50年；1999.6発行
 ・統合移転記念誌；昭和58.10発行

【図 教育学部の歴史】

「岐阜大学教育学部同窓会会則」の第1章総則の中の第2条「目的」に、次のように記されています。本会は、会員相互の親睦を図り、学識を高め、併せて母校の発展と教育文化の進展に寄与することを目的とする。

この目的達成のために、各種の事業を行っています。この会務の執行にあたり、運営委員会に4つの部会を常置しています。

- ①年1回発行の同窓会報は「広報部会」が担当しています。昨年2万部を発行し、16,000通を超える郵送を行っています。組織がデカイだけに、郵送だけでも半端な数ではありません。2008年、第14号から「A4版、カラー」となって、紙質も良くなり、1冊38円という安価ではありますが、大変見やすくしかもきれいになりました。是非目を通してください。
- ②会員の名簿を管理しているのが「組織部会」です。最近特に個人情報保護の観点から、なかなか管理が難しくなっています。会員IDと、パスワードを入力することによって、会員専用システムを利用できるシステムを創り上げました。2013年4月からスタートし、5月末で1,600回ほどのアクセスがあり

ました。(うち、個人情報の修正が600件ほどです)このシステムを是非ご活用下さい。

- ③県内の小中学校教員の実践力の向上に資するための「教育実践論文募集」を手がけているのが「事業部会」です。教諭はむろんのこと、校長・教頭・養護教諭・栄養教諭・講師・ALT…と応募が随分幅広くなってきています。昨年の応募総数は、1,276点でした。最優秀、優秀、優良、新人の各賞の受賞者の実践論文の概要を1冊の本にまとめ、小中学校はじめ県教委、教育事務所、市町村教委、受賞者等々無償で配布しています。これも岐阜大学教育学部同窓会という大きな組織のなせる業だと思っています。今年度は「第29集」を発行する予定です(4,000冊印刷、一冊400円ほどです)。
- ④そして、年間1,000万円を超える事業の展開、予算・決算、事業計画、会の運営等同窓会全体を総括しているのが「総務部会」です。

以上、岐阜大学教育学部同窓会を私たちの身近なものとして、今まで以上にご理解・ご支援をいただき、大事にさせていただけたらと願っています。



【明治8年2月 岐阜県師範学校 新校舎；厚見郡今泉村（現岐阜市）】

平成19年3月 岐阜県教育委員会発行 ふるさと学校写真帳より

教育学部長の挨拶 同窓会の皆さんへ

教育学部長 早川 万年



本年は明治6年(1873)に岐阜大学教育学部の前身である師範研習学校が設立されてから、ちょうど140年になります。人間の一生を越える長い期間にわたり、学び教えることの大切さを、小中学校をはじめ広く社会において伝えてきたのが本学部の先人たちの業績です。本学部の卒業生は教員だけでなく、公務員・民間企業等、さまざまな分野にわたっていますが、岐阜県の学校教育の根幹を支えてきたのは師範学校以来の本学部の卒業生たちであったと申せましょう。

長い間のうちにはさまざまな変化がありました。近年でいえば、十数年前に、全国規模で教員養成課程の学生定員減が大幅に行われ、私どもの学部でも定員減になりました。それが現在でも継続しているため、多くの都道府県の小中学校教員の場合、地元国立大学教員養成学部出身者の占める割合が低下する傾向にあります。また、かつてとは異なり、本学部でも最近では、入学生の中に県外出身者の占める割合が半数に迫るほどになっております。そのため、ここ数年のように、教員採用数が増えているにもかかわらず、岐阜県の学校教員における本学部卒業生の占める比率が低下する傾向があるのも事実です。

このようにいろいろな状況の変化があるとはいえ、卒業生の多くは学校教員への道に進んでいきますし、教科と教職、双方の授業科目を並行して学んでいくという、教員養成学部の基本的な教育プログラムに変わりはありません。

さて、本学の大学院には本年度(平成25年度)新専攻が設けられました。昨年度の会報でも簡単に触れましたが、従来の教科教育専攻とカリキュラム開発専攻の2専攻を総合教科教育専攻に統合いたしました。これまでの教科教育の長所を生かしながら、小学校中学校等の校種を前提とした実践的授業科目を増やすことといたしました。今年の大学院入試は、

新専攻としての試験がはじめて行われます。

本会報の場をお借りして、昨年は、教員養成学部をめぐるさまざまな動向についてその一端をお伝えしましたが、その後も政府の政策としての大学改革は、ゆっくり進行しつつあるように見受けられます。しばしば新聞等の紙面に取り上げられているように、今は大学入試改革が大きな問題となっています。それは高等学校の「共通テスト」(その具体的なあり方はまだはっきりしていません)の問題とつながっており、従来の大学入試センター試験の大幅な変更あるいは廃止といった事態も予想されます。このことは、たんに入試制度の変更といった表面的なことがらにとどまらず、高等教育における学力養成、そしてその評価を根本的にとらえ直す機会ともなると思われます。従来のような、「正解」を効率的に探し出す勉強から、より思考力、判断力を高めていく教育へと転換が図られていくことはまず間違いないでしょう。そのなかでどのような入試が行われることになるのか、さらには大学で求められる学力とは何なのか、おそらく今後多くの論議を呼ぶことになると思われます。

その点、教員養成学部は教育目的が明確であって、教員を目指す、現実的には教員採用試験に合格することが求められるのですが、それはいわば当たり前のことです。採用試験合格は教員生活の出発点確保ですから、たしかに大切ですが、決してそれは学部の教育目標ではありません。その後のよりよい教師生活こそ、教員養成学部において模索していかなければならないはずです。学校の教員は子供たちへの「正解」の伝達者にとどまるものではありません。子供たちにとって教師は大きな出会いの対象です。少なくない時間をともに過ごします。だか

らこそ「教師」としての良識、見識が大切です。それはたんなる「対応マニュアル」を多く知っているということではありません。学びの場において教師は、つまるところ、人としての総合的な力が試されることになるのでしょうか。すべての時間を通じて、児童・生徒を感化するというのはいわば理想ですが、教師はもともと、そのような資質が求められていたはずで、もちろん教育手法も重要ですが、学びの場であれ職場としてであれ、人と人の関わり合いが社会生活の基本です。いかに人として人(子供)に向き合っていくのか、いかにによりよく「生き合って」いくのか、それがまず真摯に問われなくてはなりません。人として教師としての見方考え方、すなわち社会的な感性が養われる必要があるのです。

一つ例を挙げてみましょう。

一昨年の東日本大震災はまさに歴史的な事件でした。地震・津波の恐ろしさをわれわれは目の当たりにしました。そこには数々の悲しい出来事がありました。テレビなどの報道を通じて、わたくしたちはその現況をある程度は承知しています。知人や親戚などに被災された方がいる場合も少なくないと思います。

さてそこから「感性」の問題となります。

かりそめに死者二万人などといふなかれ親あり子ありはらからあるを(長谷川權『震災歌集』より)

この短歌は心に響きます。「二万人」という数字をこえて、人として受け止めるべき「重み」「深さ」を端的に語っているからでしょう。

ところで、その震災の年の8月、本学部を卒業してまもないある小学校教員が、夏休みを利用して被災地にボランティアとして出かけました。日数は短かったのですが、帰ってきた彼女はわたくしにこのようなメールをくれました。

「瓦礫撤去のお手伝いをしたのですが、家屋の残骸だけでなく、布団や衣類などほんとうにさまざまなの

のがそこに含まれていました。ガレキという言葉のなかに、人々の日常生活そのものが詰まっていた」

歴史的な震災の現場に出かけ、瓦礫撤去のお手伝いをしながら、「ガレキ」以前にあった人々の「あたりまえ」の生活、そしてその破局というじつに重い「事実」を彼女は見て取りました。わたくしはこのような「感性」こそ大切だと思います。言葉の背後にある「人間の事実」を感じ取り、それを心で受け止める力、これこそ子供を身近に接する者に、本来、求められる感覚であると思います。

わたくしどもの目の前にいる学生たちは日々、さまざまな経験を重ね、喜びや悲しみとともに成長していきます。心の財産を積み増しながら、人としての力を養っていきます。そのようにして高めていった力で、将来、学校をはじめとしていろいろな社会の現場で自らの役割を果たしていつてくれるものとわたくしは確信しています。学びの場は、自らを高めていく時間を提供するものであって、そこで育っていった人が、いずれは社会のために貢献し、人のために尽くしてくれるのです。学び教える場や時間はけっして一つの局面に限定されるものではありませんが、教員養成学部という大きな特色を有する授業プログラムはやはり大切な内実を有しています。

わたくしどもも、授業はもちろん、学生や卒業生たちとのさまざまな時間を共有しながら、教員としての考えを深め、広げていかねばなりません。なにより、成長していく人間の精神に触れること自体に大きなよろこびを感じます。

同窓会のみなさん、どうか後輩たちを温かくお見守りください。そして、彼らの成長を見てやってください。

岐阜大学教育学部という学びの場は不変です。今後とも、学生、卒業生との触れ合いを大切にしていただき、皆さまのご支援をいただくことができれば幸いです。



教育学部同窓生の集い

共催：岐阜大学教育学部同窓会、岐阜大学教育学部

岐阜大学教育学部は、師範研習学校として設立されてから、今年で140年目を迎えます。

この間、岐阜大学教育学部は、多くの卒業生を輩出してきました。現在、岐阜大学教育学部同窓会の会員数は2万5千人を超えます。同窓生には、岐阜県師範学校・岐阜県女子師範学校・岐阜青年師範学校で学ばれた方、教育学部が長良キャンパスにあった頃に学ばれた方、そして昭和58年9月に長良キャンパスから柳戸キャンパスに移転した後に教育学部で学ばれた方がいらっしゃいます。

異なる時期に異なる場所で学ばれた同窓生が一堂に会し、岐阜大学教育学部140周年をお祝いするとともに、卒業後なかなか会えなかった級友や先輩・後輩との親睦・交流を深める会を、岐阜大学教育学部140周年記念行事として企画いたしました。

岐阜大学教育学部同窓会としては初めての試みのため、多忙な同窓生の皆様に果たしてご出席いただけるのだろうかという不安はございますが、母校で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

開催日：平成 26 年 6 月 7 日 (土)
会 場：岐阜大学講堂, 生協第2食堂

※参加人数によっては会場が変更になる可能性があります

タイムテーブル

14:20 ～

(場所) 岐阜大学講堂入口

◎ 受付開始

事前申込みをいただいた方には、記念品をご用意しております。

15:00 ～ 16:00

(場所) 岐阜大学講堂

(会費) 無料

◎ 記念式典

1. 同窓会会長挨拶
2. 来賓挨拶
3. 大学紹介 等

16:00 ～ 17:30

(場所) 生協第2食堂

(会費) 2,000円

◎ 記念パーティー

同窓生の皆様の語らいの場として、懇親会を行います。

会員の皆様へ

返信用ハガキ「『同窓生の集い』参加へのお伺い」をご返送ください。

準備のため、参加を希望される方の数を把握する必要があります。

参加を希望される方および参加する可能性のある方は、会報に同封されております返信用ハガキ（住所等変更回答用ハガキ）にてご回答ください。

時期が近づきましたら、ご回答くださった会員の皆様に詳しい開催案内と申込書をお送りいたします。（平成26年3月下旬から4月上旬の間に郵送する予定です）

開催までの流れ

参加する・参加する可能性のある方は
返信用ハガキ「『同窓生の集い』参加へのお伺い」を返送

×切
平成26年1月末日

↓
ハガキを返送いただいた方へ詳細案内を送付
平成26年3月下旬～4月上旬

当日の詳細案内と
申込書を送付いたします。
参加希望の方は、申込み
続きをして下さい。

↓
事前申込み受付

申込み×切
平成26年4月末日

↓
「同窓会の集い」

当日、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

当日参加も可能ですが、記
念品の数に限りがございます
ので、事前お申し込みを
お願いいたします。

平成 25 年度岐阜大学教育学部同窓会評議会報告

日 時 平成 25 年 6 月 8 日 13 時 30 分から
 場 所 教育学部本館 7 階 第一会議室
 出席者等 評議員・理事・役員 129 名 (内委任状出席 80 名)
 会 議 議事については、議長として西村覚良副会長を選出し、以下の事項について審議した。



- ① 平成 24 年度事業報告
村瀬総務部会長, 加藤組織部会長, 田口事業部会長, 辻広報部会長から資料に基づき報告があった。
- ② 平成 24 年度決算報告
村瀬総務部会長から 24 年度の会計決算報告がなされた。
- ③ 会計監査報告
野村会計監査から, 会計監査の結果, 予算の執行管理等適切になされている旨の報告がなされた。
- ④ 事業報告及び決算の承認
審議の結果, 報告の通り 24 年度事業と決算が承認された。
- ⑤ 次期同窓会会長選出について
会長推挙委員会宮本委員長より, 次期会長に後藤忠喜氏を推挙する旨の報告及び推挙理由についての説明がなされた。
これを受け, 審議の結果, 後藤忠喜氏を次期会長として決定した。
- ⑥ 新同窓会長挨拶
新同窓会長に決定した, 後藤忠喜氏からの挨拶。
- ⑦ 新役員の決定承認と報告
後藤忠喜同窓会長より, 新役員の提案があり, これを承認した。
- ⑧ 旧役員の挨拶・紹介
前同窓会長より挨拶があり, 旧役員の紹介がなされた。
※※役員交代※※
- ⑨ 平成 25 年度事業計画
村瀬総務部会長, 加藤組織部会長, 浅野事業部会長, 辻広報部会長から各部の事業計画の提案がなされた。
- ⑩ 平成 25 年度予算審議
村瀬総務部会長から, 25 年度予算についての提案がなされた。
- ⑪ 事業計画案及び予算案の承認
審議の結果, 平成 25 年度の事業計画と予算を承認した。
- ⑫ その他

平成 24 年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

科目	決算金額
前年度繰越金	3,486,007
同窓会費	7,560,000
事業活動基金より繰入	2,871,750
雑収入	120
合計	13,917,877

科目	決算金額
運営費	2,758,136
庶務費	1,452,000
事務管理費	806,668
役員会費	377,378
通信費	82,300
渉外費	6,000
交通費	33,790
組織活動費	4,514,672
名簿管理費	3,958,272
名簿作成助成費	40,210
同窓会入会式費	516,190
学部援助費	137,371
事務援助費	77,371
記念庭園管理費	0
教育文化助成費	60,000
事業活動費	1,729,404
成果刊行費	814,065
会議費	676,502
事務費	238,837
広報活動費	1,907,625
印刷費	761,375
通信費	1,146,250
次年度繰越金	2,870,669
合計	13,917,877

●事業活動基金

科目	決算金額
前年度繰越金	45,635,544
利息	12,453
合計	45,647,997

科目	決算金額
一般会計へ繰入	2,871,750
貸金庫料	8,400
次年度繰越金	42,767,847
合計	45,647,997

●教育実践事業基金

科目	決算金額
前年度繰越金	4,219,606
利息	1,037
寄付金	200,000
合計	4,420,643

科目	決算金額
教育実践論文顕彰費	390,000
次年度繰越金	4,030,643
合計	4,420,643

平成 25 年 6 月 8 日評議会で承認済み。

平成 24 年度教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	7 入学式 9 新入生ガイダンス 10 在学生ガイダンス 24 監査	18 役員変更状況確認	23 第27集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回	
5		9 新システム導入打合せ 10 組織部会	● 第27集発刊 ● 第28集に係る教育研修課への依頼 24 第27集配布作業	
6	1 同窓会連合会 2 運営委員会 16 理事会・評議会の開催	16 学科事務局会	● 教育事務所長会, 県小中校長会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	16 第1回部会 ● 担当分担, 細部打合せ
7	26 拡大運営委員会		● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	7 教育学部・同窓会懇談会 (オープンキャンパス共催事業)	● 会費未納者再請求		● 執筆者の原稿作成 ● 会報の原稿集め
9				● 印刷業者の選定 ● レイアウト, 挿絵, 配置など
10			● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	16 第2回部会(編集会議)
11	● カレンダー作成作業	● 不明者一覧表の作成 ● 会員情報変更ハガキ作成	● 審査依頼；都市教育長, 会長, 町村教育長会長, 県小中校長会長, 同小校長会長, 同中校長会長	● 会報の原稿の校正(初校) ● 会報の原稿の校正(2校)
12		● 不明者一覧表の完成 ● 会員情報変更ハガキ完成		● 同窓会報第18号発行・発送
1	11 拡大運営委員会 ● カレンダー原稿入稿	● 会員システム利用の手引き作成・印刷 ● IDパスワード発送準備	30 事業部会	
2	● カレンダー完成	● IDパスワード発送準備	15 論文概要入手, 予備審査, 最終審査資料作成	
3	25 教育学部同窓会入会式及び卒業生との懇親会 ● カレンダーの配布	● 卒業生への同窓会員情報変更ハガキの配布 ● IDパスワード発送作業	1 第二次審査会 14 最終審査会 ● 教育実践研究入賞論文集-第28集-発刊手続き開始	

1. はじめに

2020年に東京でオリンピックが開催されることが決定し、今から私たちの心をわくわくさせています。IOC委員の心を動かし、東京が選ばれた大きな原動力となったのがあのプレゼンテーションでした。その中で滝川クリステルさんが用いた「お・も・て・な・し」は東日本大震災の時に脚光を浴びた「絆」とともに日本人がもっている誇るべきメンタリティーだと思います。

日本は戦後の復興を果たし、さらに様々な課題を乗り越えようとしています。これは学校教育を含めた「教育の力」があるからです。教育ではぐくまれた知識・技能、勤勉さや思いやり等の道徳性・社会性が経済成長を支え、国際的にも信頼性を高めています。日本の学校教育は、ナショナルスタンダード、義務教育費国庫負担法、教職員の養成・研修等、国を挙げての教育施策の充実を負うところは大きいわけですが。特に岐阜県では、教職員が切磋琢磨して指導

力を高めようとする校内外の研修体制の充実や、一人一人の教職員が自ら力を付けようとする志気の高さが質の高い指導を生み出していると思います。岐阜大学同窓会の事業である「教育実践研究助成事業」は、こうした岐阜県教育の発展にささやかながら貢献させていただいているのではないかと自負しています。

別紙の教育実践研究論文受賞者の皆さん、本当におめでとうございます。県教育委員会研修管理課・各教育事務所、市町村教育委員会の教育行政機関と、県小中学校・小学校・中学校の各校長会が総力を挙げて募集・審査にご協力をいただき、心より感謝申し上げます。それだけに受賞者の先生方は謙虚さの中に自信と誇りをもって一層自己研鑽に励んでいただきたいと思いますし、同時に実践を仲間へ広げ、子どもたちのために共に高め合う岐阜県の教師集団であって欲しいと願っています。

2. 応募状況とその傾向

平成24年度に応募状況は<表1><表2>のとおりでした。

<表1>職種別、年代別、性別応募人数（総計 1284名）

校種	職種別										年代別					性別		
	校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	講師	A・L・T等	小計	20代	30代	40代	50代	小計	男性	女性	小計
小	8	4	2	709	22	5	5	20	0	775	360	207	138	70	775	361	414	775
中	1	1	0	480	10	1	1	13	2	509	254	195	47	13	509	313	196	509
計	9	5	2	1189	32	6	6	33	2	1284	614	402	185	83	1284	674	610	1284

<表2>領域別応募論文数（小772編、中504編 総計1276編）

校種	教科											教科以外										
	国語	社会	算数・数学	理科	生活	音楽	図・美	技家	保体	英語	小計	道徳	特別活動	総合学習	外国語活動	学級経営	生徒指導	特別支援	健康安全	管理経営	その他	小計
小	164	65	146	33	25	29	17	9	43	8	539	28	26	11	23	39	14	34	28	12	18	233
中	55	49	78	59	0	26	21	18	44	66	416	6	12	7	0	22	2	16	10	3	10	88
計	219	114	224	92	25	55	38	27	87	74	955	34	38	18	23	61	16	50	38	15	28	321

【応募の傾向】

- ①平成23年度より応募人数は20名、応募作品は29点増加しました。
- ②20歳代の応募47.8%、30歳代の応募31.3%と、若い教職員の応募が増加傾向にあります。

3. 審査会の報告

(1) 審査の経過

応募された論文は次の過程を経て審査され、別紙のように最優秀賞、優秀賞、優良賞、新人賞が決定しました。



【二次審査会の様子】

- ・全国的・今日的な課題である「小1プロブレム」の解決に示唆を与える実践論文である。
- ・児童の実態をよく分析し、適切な指導目標と評価規準の設定がなされている。
- ・観察対象児童の変容を追うことにより、客観的に実践の検証を行っている。
- ・単発的な指導でなく、何年にもわたって複数単元で実践が積み上げられている。



【最終審査会の様子】

(2) 審査の観点

審査は次の5つの観点から厳正に行われました。

- ① 教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。
- ② 教育現場に密着して、目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか。
- ③ 児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
- ④ 研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか。
- ⑤ 教育実践・研究論文として明確な表記であるか。

(3) 最優秀賞の決定

上記の観点から10点の優秀賞が選ばれ、最終審査会の場で、更にその中で最も優れた論文（最優秀賞）が次のように決定しました。

多治見市立小泉小学校 田中祐子教諭（生活科）

◇論文テーマ◇

豊かな活動を通し、気づきの質を高め、自立への基礎を養う生活科学習
～対象との関わりを強め、学びの自覚を図り自己肯定感を高める学習指導の在り方

審査の中で、田中教諭の論文が優れている点として挙げられたことを列記しますので、是非今後の参考にしていたら幸いです。

4. 今後の期待と感謝

二次審査会、最終審査会の中で、最優秀賞候補作品（10点）の素晴らしさについて審査員から次のような意見がありました。

- ・新指導要領に付加された目標である「自尊感情の育成」に正面から切り込んでいる。
- ・随所に「楽しい活動」が盛り込まれている。
- ・問題解決学習が仕組まれている。
- ・子どもと真剣に向き合い、客観的評価と自己評価を組み合わせ実践の検証ができています。等々

さらに今後の教育実践研究論文への期待として、「私はこういう意味でこの言葉を使う」といった立場の明確化（例「自己肯定感」とは、「気づきの質を高める」とは・・・）、「仮説→計画→検証」の道筋が明確に繋がっていること、子どもの姿がにじみ出る実践論文であること等の意見が出されました。

教育の最前線で奮闘していらっしゃる教職員の皆さんには頭が下がります。日々の素敵な教育実践を書きまとめることも、「学び続ける教師」を実現する重要な取組であり、一層力を付けることができると確信します。本年度もたくさんの教職員の方の応募を期待しています。

本事業は昨年度で28年間の時を刻みました。県教育委員会、市町村教育委員会、校長会の全面的なご理解・ご支援に心より感謝申し上げます。県内の主たる教育機関の力が結集された一大事業であることに重みを感じながら、一層の充実を期していきたいと思っています。



第28回（平成24年度）岐阜県小中学校 教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞（1編）		
多治見市・小泉小	田中 祐子	豊かな活動を通し、気付きの質を高め、自立への基礎を養う生活科学習 ～対象とのかかわりを強め、学びの自覚を図り自己肯定感を高める学習指導の在り方～ 〈生活〉
優秀賞（9編）		
岐阜市・境川中	武部 八重子	英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力の育成 ～4技能を関連づけ、総合的に育成する指導の在り方～ 〈英語〉
岐阜市・長良東小	細江 達三	科学的な思考力・表現力をはぐくむ理科学習の創造 ～考察する力を身に付け、考えることの楽しさを味わう子の姿を求めて～ 〈理科〉
各務原市・蘇原第一小	津馬 史壮	主体的に健康な生活を送ることのできる子の育成 ～げんきアップカレンダーによる生活習慣の定着と自己肯定感の高まりをめざして～ 〈健康安全〉
垂井町・表佐小	草野 剛	自主・共生・協働の力を育む「総合的な学習の時間」の在り方 ～人とのふれあいをテーマとした地域との交流体験活動を中心にして～ 〈総合的な学習の時間〉
大垣市・東安中	菅井万里子	自ら学び、発想力・構想力豊かに自分の願いを表現するための学習活動の工夫 ～基礎的・基本的な技能の定着と個別支援を大切に授業づくり～ 〈美術〉
郡上市・八幡西中	加藤 朋代	仲間と親和的な関係を築き、自己の生き方を見つめながら志をもって活動できる子の育成 〈特別活動〉
美濃加茂市・太田小	坂津 弘文	自ら社会的事象の意味を追究する子 ～子どもが自らかかわって高まる社会科指導のあり方～ 〈社会〉
恵那市・恵那東中	安藤 善和	郷土の文化への理解と愛着を深め、確かな造形力が育つ版画題材 〈美術〉
高山市・北小学校	朝田 佳菜絵	社会的事象の意味を意欲的に追求し、夢中になって学ぶ子が育つ授業を目指して 〈社会〉
優良賞（40編）		
岐阜市・長良西小	額 額 雅守	自己を見つめ、仲間とともによりよく生きようとする子の育成 ～主人公に寄り添い、自己の生き方に結びつけながらよりよい生き方を追求する道徳の時間の在り方～ 〈道徳〉
羽島市・桑原小	橘 香緒里	知識・技能の習熟を図り、思考力・表現力を高める算数の授業の在り方 〈算数〉
岐阜市・加納小	久田 より子	願いをもち、仲間と活動する中で、社会自立に必要な力を身に付ける子Ⅱ ～生活単元学習「遊びの活動」を通して～ 〈特別支援〉
岐阜市・長良小学校	小島 伊織	社会的事象を人々の努力の積み重ねからとらえる指導の在り方 〈社会〉
山県市・いわ桜小	奥田 宣子	一人一人の学力を高める学習指導の工夫 ～確かな考え方を創り出す言語活動の在り方～ 〈算数〉
羽島市・堀津小	島戸 秀人	思考力・表現力を育み、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る算数科学習 〈算数〉
本巣市・弾正小	豊吉 綾香	学ぶ楽しさを実感できる算数科指導 ～算数的活動の充実を図る学習指導の工夫改善～ 〈算数〉
北方町・北方小	村瀬 明美	論理的に思考し、生き生きと表現する子どもをめざして 〈国語〉
笠松町・松枝小	仲井 綾子	児童が主体となる授業の創造 ～複数教材・多読の位置付けを通して～ 〈国語〉
岐阜市・長良東小	太田 千香子	主体的に読書をする力が育つ国語科学習 ～「活用する読書活動」と「並行読書」を位置付けた単元の学習を通して～ 〈国語〉
各務原市・桜丘中	川瀬 秀樹	主体的な探究を通して、科学的な見方や考え方を育てる理科授業の創造 ～自ら学ぶ力を身に付け、自己の高まりを実感する学びを通して～ 〈理科〉
各務原市・鶴沼第三小	中野 美奈子	仲間と関わり合い、自分たちで高め合うことのできる児童の育成 ～A男とB子の成長を通して～ 〈学級経営〉
瑞穂市・本田小	堀 正樹	生徒指導主事としての望ましい在り方を求めて ～子どもたちが安心して生活できる学校を目指して～ 〈生徒指導〉
大垣市・興文小	中田 由佳	主体的な学びを生み出し、思考力・判断力・表現力を育む国語科の活用学習 ～習得と活用を関連付けた言語活動の充実を通して～ 〈国語〉
大垣市・安井小	山田 由紀子	「技能」の定着と「数学的な考え方」の育成を図る低学年の算数科の指導 ～目的意識をもって主体的に取り組む算数的活動を通して～ 〈算数〉
大垣市・綾里小	三輪 章人	特別な教育的支援を要する児童とともに高まる学級経営の在り方 ～Q-Uを活用した学級集団と個の分析をもとにして～ 〈特別活動〉
関ヶ原町・関ヶ原小	堀 美佳	楽しさと確かさの中に美しさを求める音楽教育 ～音楽のよさを感じ、つながりを生かして思いを豊かに表現する授業～ 〈音楽〉
神戸町・神戸小	伊藤 裕子	食に関心を持ち、よりよい食生活を選択できる児童の育成 ～学校給食を生かして食の学びをつなぐ指導～ 〈健康安全〉
揖斐川町・坂内小	後藤 靖弘	郷土坂内を愛し、たくましく「ひとりだち」のできる児童生徒をめざして ～少人数のよさを生かし、対話を通して互いに高め合う社会科学習の在り方～ 〈社会〉
揖斐川町・坂内小	小澤 飛鳥	自ら読み進め、考え表現し、読みの力を高めていく子の育成 ～少人数複式学級での「読むこと」の指導を通して～ 〈国語〉
大野町・大野中	小野 由加里	良好な人間関係を築き、自己肯定感を高めるための一試み ～自己受容と自己開示、他者理解を重視した学級経営の実践を通して～ 〈学級経営〉
関市・桜ヶ丘中	高橋 志保	仲間とともに本気で活動に向かうことに価値を見出せる生徒の育成 ～学級目標達成に向けて粘り強く取り組む個・集団～ 〈学級経営〉
美濃市・美濃小	鷺見 宏太	よりよい人間関係を育む学級経営 ～ふれあいのある人間関係づくりと規律ある学級集団づくりを目指して～ 〈学級経営〉

関市・下有知小	竹内 孝子	音楽活動の基礎的な力を身に付け、豊かに表現する子の育成 ～共通事項を位置付けた学習活動の充実を重点として～	〈音楽〉
関市・旭ヶ丘小	山田 達哉	豊かに思いをふくらませなら表現する子をめざして ～1年生「表現A(2)立体に表す」の実践を通して～	〈図画工作〉
可児市・今渡北小	社本 教恵	どの子どもも楽しく学び、「できた」「わかった」が実感できる授業づくり ～通常学級におけるユニバーサルデザインの授業～	〈特別支援〉
御嵩町・御嵩小	広瀬 浩一	運動の楽しさや喜びを味わう体育授業の創造 ～マット運動の中核技能を問い直して～	〈体育〉
七宗町・神測中	工藤 敏郎	主体的に取り組み、仲間とともに自らの学びを高める生徒の育成 ～実感を伴った理解を図る理科の学習の創造～	〈理科〉
可児市・兼山小	中山 洋信	歴史認識を確かなものにする社会科学習 ～「習得」と「活用」を明確にした授業改善～	〈社会〉
多治見市・南姫小	新宅 武徳	自ら諸感覚を働かせて積極的に自然の事物・現象に触れる児童の育成 ～第6学年「月と太陽」における学習過程の工夫～	〈理科〉
土岐市・泉西小	島崎 弥里	運動することの楽しさを実感し、進んで運動に取り組む児童の育成 ～教科体育・全校朝運動による体幹作り～	〈体育〉
瑞浪市・瑞浪小	久野 智治	説明的な文章教材で、内容や表現を確実にとらえる力を付ける国語科学習の創造 ～「言語活動」と「図化」と「評価(習得)の場」を生かして～	〈国語〉
瑞浪市・土岐小	大野 友香	数学的な思考力・表現力を身に付けた子	〈算数〉
瑞浪市・陶中	大竹 里奈	「わかった！」喜びを実感できる社会科授業 ～『日本の諸地域』の学習を通して社会的な見方や考え方が深まる生徒をめざして～	〈社会〉
恵那市・恵那西中	大崎 大地	科学的に探究し、自然についての理解を深める生徒の育成 ～基礎的・基本的な知識や概念を確実に習得し、分かる喜びが実感できる授業の創造～	〈理科〉
中津川市・南小	渡邊 千夏	自己肯定感を高める指導の工夫 ～特別な支援を要する子の「～したい」という思いを高めるための授業改善～	〈特別支援〉
飛騨市・神岡中	霜出 剛史	基礎的・基本的な知識や技能を習得する技術・家庭科の授業を目指して ～生徒が「わかった」「できた」「やってよかった」という実感をえられるために～	〈技術・家庭〉
飛騨市・神岡中	加納 聡	主体的に運動に取り組み、仲間とともに運動の楽しさや喜びを味わえる体育学習 ～2年生男子「ダンス」の実戦を通して～	〈保健体育〉
下呂市・竹原小	田口 淳子	楽しい学びと心豊かな生活をすべての子どもたちに ～通級指導教室からの発信～	〈特別支援〉
白川村・白川小	近藤 真弘	ふるさと「白川村」に夢と誇りをもった「白川人」を育てる指導 ～地域の教育資源を生かして、探求的・共同的に学ぶ総合的な学習の時間～	〈総合学習〉

新人賞 (20 編)			
岐阜市・柳津小	森田 真代	自ら意欲的に学び続ける,社会科学習のあり方	〈社会〉
羽島市・竹鼻小	石田 奈々	仲間と学び合う中で,自らの成長を実感できる生活科学習 ～言語活動の充実を通して～	〈生活〉
本巣市・一色小	川添 綾香	『学級目標を中核に据え,めざす子ども像・学級像に迫る』学級経営を目指して ～年間を見直し,仲間同士の関わり合いから生まれる所属感・自己肯定感を大切に学級経営を通して～	〈学級経営〉
岐南町・西小	石樽 隆之	「できた,わかった」を実感できる算数の授業 ～数学的な考え方を書くことができる児童の育成～	〈算数〉
瑞穂市・本田小	松井 紀子	苦しみや悲しみをわがちあいに成長する子の育成 ～不登校児K子とのかかわりを通して～	〈学級経営〉
大垣市・興文小	藤内 陽子	願いや思いを豊かに表現し,つくりだす喜びを味わうことのできる図画工作科の授業 ～2年生及び5年生「A表現(2)立体に表す」の実践を通して～	〈図画工作〉
養老町・日吉小	松田 香織	自ら健康づくりを実践できる児童の育成	〈健康安全〉
輪之内町・仁木小	山田 依里	主体的によりよい生活習慣を身につける子の育成 ～ぐっすり睡眠の習慣を育成する指導を通して規則正しい生活習慣の実践をめざす～	〈健康安全〉
揖斐川町・揖斐小	水野 孝太郎	資料を効果的に活用し,社会的事象を多面的・多角的にとらえる子どもの育成	〈社会〉
関市・上之保小	木島 慎介	目を輝かせながら自然の事象を科学的に探究する児童の育成	〈理科〉
美濃市・美濃中	若森 翔平	生き生きと踊る「現代的なリズムのダンス」をめざして ～恥ずかしさを乗り越えて,心を解放する指導を通して～	〈保健体育〉
御嵩町・向陽中	松本 晴香	基本的な知識・技能の習得を図り,自ら学ぶ意欲や態度を育てる美術指導の在り方 ～個の学力・学習状況に応じたきめ細やかな指導の充実～	〈美術〉
美濃加茂市・下米田小	鳩谷 聡子	積極的にコミュニケーションを図り,生き生きと学び合う子どもの育成をめざして ～児童が楽しんで活動する外国語活動の在り方～	〈外国語活動〉
川辺町・川辺東小	小谷 公也	「算数大好き！」考えを創り,算数を創造する子の育成 ～高学年算数科における算数的活動と言語活動の充実～	〈算数〉
多治見市・精華小	足立 奈穂	「説明的な文章の内容や構造を理解する力」を育てる国語科学習 ～1年生「くちばし」「じどう車くらべ」を通して～	〈国語〉
瑞浪市・瑞浪中	藤井 志帆	一人一人のコミュニケーション能力を高める指導過程の工夫	〈外国語〉
恵那市・長島小	伊藤 あゆ美	指導事項の明確な言語活動を位置付けた,国語科指導の在り方 ～「読むこと」の力を「書くこと」に活用できる児童の育成～	〈国語〉
中津川市・阿木小	梅田 智敬	社会的事象の意味を意欲的に追究し,自らの生き方をつくり出す子が育つ社会科学習 ～第4学年「火事からくらしを守る」,「伝統工芸の町」美濃市の学習を通して～	〈社会〉
下呂市・萩原南中	神谷 真紀子	思いをもって一人一人が,誰かのために動ける自分づくり ～総合的・横断的な福祉教育の在り方を模索して～	〈福祉教育〉
高山市・東小	松井 久美子	自分の考えや思いを表現する楽しさを実感し,意欲的に取り組むことのできる児童の育成 ～国語科「書くこと」と他教科での実践を通して～	〈国語〉



平成25年4月から12月までの
岐阜大学教育学部および教育学研究科の
最新情報をお伝えします。

教育学部 教職実践演習が始まる

平成18年7月、中央教員審議会が「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(答申)を取りまとめました。この答申では、今後の教員養成や免許制度に関する改革の基本的な方向が示され、それを実現するための方策が提言されました。この方策の中には、大学の学部段階の教職課程の改善・充実を図ることを目的としたものもあり、その内容は次の5項目になります。

1. 教職実践演習の新設・必修化
2. 教育実習の改善・充実
3. 「教職指導」の充実
4. 教員養成カリキュラム委員会の機能の充実・強化
5. 教職課程に係る事後評価機能や認定審査の充実

岐阜大学教育学部では、上記の答申で示された「教職実践演習」の新設・必修化にむけての話し合いが各講座の代表によって進められ、平成25年度の後学期より4年生必修科目として行われることになりました。この科目は、教職課程の他の科目の履修や課程外での様々な活動を通して身につけた教員としての最小限必要な資質や能力を確実に身につけさせるために、役割演技やグループ討議、事例研究、現地調査(フィールドワーク)、模擬授業等を取り入れた授業を、教科に関する科目と教職に関する科目の担当教員が共同で行うことが求められています。

岐阜大学教育学部の「教職実践演習」は、全体のおよそ3分の1が全員受講する授業、残りが講座ごとに分かれて行う授業になっています。前者は、教職担当の教員や岐阜県教育委員会からのゲスト講師による講義が行われ、学生はこれらの講義を通して、教職への使命感、教育職員としての対人関係能力、学級経営、生徒指導などについて学び、来年4月から始まる教員生活への準備を行います。後者の講座ごとに分かれて行う授業では、それぞれの講座が「教員としての最小限必要な資質や能力」を確実に定着させるためのカリキュラムを用意し、実施されます。例えば、ある講座では、小学生を対象としたワークショップ(参加体験型活動)

の企画・実施を通して、教員としての資質や能力の定着を図るカリキュラムを考え、実施しています。

また、別の講座では、1グループ4～5名に分かれ、グループごとに40分の授業を設計し、児童役になった大学生に対して模擬授業を実施し、その授業をまた別のグループが評価するという活動を通して、これまでに言葉で学んだ知識を実際に使える知識(身体化された知識)へ変容するためのカリキュラムを作り、実施しています。

この教育実践演習では、必ず現地調査(フィールドワーク)を実施する必要があるため、この現地調査では、同窓生の皆様が勤務されている学校に学生がお邪魔することもあると思います。その時にはどうか温かい指導や助言をお願いします。

教育学研究科 改組が行われました

岐阜大学大学院教育学研究科には、教職実践開発専攻(通称：教職大学院)、心理発達支援専攻、教科教育専攻、カリキュラム開発専攻の4つの専攻が設置されていましたが、教科教育と教科専門を融合し、小学校における教科間の連携と、各教科における小・中・高等学校の連続性をふまえた教育に対応できる高度な教育専門職者の育成を目指し、教科教育専攻とカリキュラム開発専攻を統合した「総合教科教育専攻」を平成25年度に新設しました。

総合教科教育専攻には、言語社会コース、サイエンスコース、芸術身体表現コース、カリキュラム開発コースの4コースが設置されました(図1)。以下では、それぞれのコースについて説明します(出典：教育学研究科HP)。

言語社会コース

小学校教科等の「国語」「外国語活動」及び「社会」に関する内容について、コミュニケーションという概念を共通の基礎に置きつつ、それぞれの教科専門の知識を深化させ、教科教育の実践手法で研磨し、教育現場で活躍する人材を養成するコースです。



【図1 2013年4月に新設された新専攻とそのコース】

サイエンスコース

小学校教科等の「理科」「算数」「工作」及び「家庭」に関する教育内容を「サイエンス」という概念で統合したコースで、理科、数学科、技術科、家庭科の各領域における高度な専門知識と優れた研究能力を備えた専門識者を養成するために、理論と実践の追求と課題研究の完遂を目指しています。

芸術身体表現コース

小学校教科等の「音楽」「図画工作」及び「体育」に関する教育内容を芸術や身体に関する表現という概念で統合したコースで、音楽科、図画工作科、体育科の各領域において今日的課題を合理的に解決し、科学的に対応できる高い資質を備えた教員や社会人の養成を目指しています。

カリキュラム開発コース

教育実践の場におけるカリキュラム開発に関連した、(1)児童生徒の豊かな学びの設計、(2)教師の活動やシステムとしての学校・教育機関の改善、(3)言語・環境・情報などの新たなリテラシー、それぞれの知識と技能を学ぶとともに、大学院生自らの教育実践研究を進めます。また、遠隔地で働きながら学修することが可能です。

総合教科教育専攻では、働きながら学び、研究したい現職教員を受け入れるため、カリキュラム開発コースにおいて夜間遠隔授業および集中講義で大学院修了に必要な単位を履修できるようなカリキュラムを整備しています。また、このコースでは修士研究のための研究指導も夜間遠隔で行っている研究室も多くあり、働きながら研究に取り組めるようにきめ細やかな支援体制も整えられています。

平成25年10月、教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議が、「大学院段階の教員養成の改革と充実等について」という報告書をまとめました。この報告書をみると、これからの教員は社会の急激な変化に対応するために様々な能力を身につける必要があり、これらの能力を身につけ向上するためには、「教職生活全体を通じて学び続けることが求められる」と記述されています。

教員に限らず、どの分野においても必要とされる知識や技能は時とともに変化し、絶えず刷新することが求められています。知識や技能を刷新する場として、大学院はうってつけの場所だと思います。まずは、毎年8月下旬に岐阜大学で開催される教育学研究科の大学院入学説明会に参加してみるのはいかがでしょうか。

岐阜大学教育学研究科の大学院入試に関するスケジュール

7月中旬～	学生募集要項の配布
8月下旬	大学院入学説明会の開催
9月上旬～中旬	出願期間
10月上旬	大学院入試（一次）
10月下旬	合格者発表

*二次募集がある場合

12月上旬～	学生募集要項の配布
翌年1月下旬	出願期間
翌年2月上旬	大学院入試（二次）
翌年3月上旬	合格者発表

入試に関する詳細情報は、岐阜大学教育学部学務係へお問い合わせください。

会長

後藤 忠喜 (S38 数学)

副会長

野村 武宏 (S39 物理)

田口 和男 (S43 生物)

小森 正子 (S41 家政)

村瀬康一郎 (S53 数学)

幹事 (◎部会長 ○副部会長)

総務部会 (担当副会長 村瀬康一郎)

- ◎ 村瀬康一郎 (S53 数学)
- 田口 勝行 (S40 体育)
- 後藤 信義 (S47 英語)
- 棚橋 弘 (S48 音楽)
- 高橋 和子 (S49 美術)

組織部会 (担当副会長 野村 武宏)

- ◎ 加藤 直樹 (S54 物理)
- 松岡 博 (S43 物理)
- 国枝 俊介 (S44 美術)
- 興戸 律子 (S54 数学)

事業部会 (担当副会長 田口 和男)

- ◎ 浅野 佳正 (S46 数学)
- 吉田 政直 (S47 体育)
- 黒田 隆吉 (S47 地学)
- 高橋 雅裕 (S47 数学)
- 山田 正昭 (S49 地学)
- 林 百合子 (S46 教育)

広報部会 (担当副会長 小森 正子)

- ◎ 辻 泰秀 (S55 美術)
- 大塚 頼明 (S43 国語)
- 小牧 壽 (S45 地理)
- 高橋 忠明 (S48 技術)
- 今井 亜湖 (H10 技術)

監査

- 高田 哲夫 (S41 数学)
- 赤塚 邦芳 (S43 史学)
- 川瀬 喜生 (S45 数学)

評 議 員

大学系		
国文	藤根 隆	S63
	村山 邦博	S63
	吉永 康昭	H5
	富山 哲成	H8
史学	吉田 雪絵	H8
	西村 覚良	S39
	小川 敏雄	S40
	友田 靖雄	S40
	丹羽 柳三	S42
地理	赤塚 邦芳	S43
	松田 孝弘	S36
	小牧 壽	S45
	小林 直樹	S50
	豊島 博	S58
法経	堀江 秀樹	S58
	山本 謙	S48
	井森 宗吉	S51
	村井 俊之	S56
哲学	丸山 靖生	H3
	古川 徹	H19
	近藤 新八	S43
	柘植 卓伸	S52
	国定 幸敏	S53
数学	榎井奈津子	H元
	奥村 直也	H5
	秋山 健	S36
	後藤 忠喜	S38
	内田 一之	S43
物理	宮脇 恭頭	S43
	熊崎 盛敏	S55
	奥田 好紀	S56
	若曾根 隆	S58
	堀部 昇	S61
化学	市原 隆行	H2
	竹腰 宣行	H3
	柘植 良雄	S50
	森 社	S51
生物	小柳 欣也	S51
	服部 公彦	S57
	酒井 茂	S62
	安藤 志郎	S43
	大野 伴和	S52

大学系		
地学	小栗 敬彦	S42
	山元 敏治	S45
	岩田 将之	S48
	大平 柳一	S49
	水谷 憲司	S55
音楽	棚橋 弘	S49
	羽土 聡	S59
	山田真紀子	S55
	杉本 公彦	S61
美術	三本木陽子	S51
	酒井 賢	S34
	高木 文夫	S35
	長谷川 清	S37
	国枝 俊介	S44
体育	安江 次郎	S50
	中村 博巳	S39
	田口 機子	S40
	石子 裕朗	S45
	岡部好四郎	S52
技職	谷端 良夫	S55
	宮本 英洋	S39
	伏屋 敬介	S46
	高橋 忠明	S48
	吉田 竹虎	S63
家政	淀川 雅夫	H8
	杉山 恵子	S48
	清水 優子	S50
	有尾 陽子	H5
	大畑 恵美	H6
英語	伊藤 有里	H7
	中村 美幸	S40
	後藤 信義	S47
	高橋 克	S50
	深尾 雅人	S57
教育	山下 敦子	S60
	安田 和夫	S53
	柳川 禎章	S53
	神谷 弘子	S53

師範系		
師範 男子	宮川登喜夫	S14
	西脇 成紀	S20
	田口 謙介	S22
	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
師範 女子	松岡 茂喜	S25
	高井 玉枝	S15
	大前 美子	S16
	田中 良泉	S17
	所 家子	S19
青年 師範	野中 和子	S20
	小倉三子	S23
	安藤 雅子	S24
	恩田 千束	S25
	安田 嗣朗	S21
内田 英夫	S23	
石田 幸彦	S24	
今井 昌喜	S25	
服部 真六	S26	
乾 乃武子	S26	

理 事

大学系		
国文	曾我部領史	H8
史学	西村 覺良	S39
地理	松田 孝弘	S36
法経	大平 橘夫	S40
哲学	谷本 龍馬	S50
数学	堀部 邦雄	S36
物理	鈴木 雅史	S50
化学	華井 章裕	S46
生物	小椋 郁夫	S49
地学	小島 理生	S39
音楽	棚橋 弘	S49
美術	石原 通男	S32
体育	奥村 収	S32
技職	宮本 英洋	S39
家政	野村 令子	S34
英語	古澤 哲男	S42
教育	堀井 恕直	S34
師範系		
男師	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
女師	安藤 雅子	S24
青師	内田 英夫	S23
	石田 幸彦	S24

平成25年12月1日現在

1. 教員就職率が8割を超えた。

文部科学省への報告に教員就職率というのがあります。それは、教員就職者÷(全卒業生－大学院進学者)で算出されます。ここ数年来70%台であったのが、今春の卒業生の就職率は81.9%(昨年71.4%)でした。また、大学院進学者44人の中の14名が教員採用試験に合格し、2年の猶予を頂いて進学しています。

2. オール岐阜大学という考え方

教育学部の学部生、院生、卒業生が400名以上教員採用試験に臨んでいます。

院生や卒業生も含めたオール岐阜大学という考え方で採用試験対策を進めています。

今年度も教育学部後援会の支援を頂き、卒業生を対象に教員採用試験の学習会を4回開催しました。学習会参加者の一次試験合格率は小学校90.9%、中学校80.0%、高等学校83.3%、特別支援学校50.0%、愛知県100%です。

オール岐阜大学の今年度の教員採用試験一次試験の受験者数は右表の通りです。

	現役	院生	既卒 (岐阜県)	総合計
小学校	139	16	79	234 + α
中学校	38	11	26	75 + α
高等学校	22	9	24	55 + α
特別支援学校	14	0	14	28 + α
幼稚園	1	0	0	1 + α
合計	214	36	143	393 + α

(+ α は他県受験の既卒者数)

3. 学部としてのバックアップ

① 2回行った一次試験対策の「集団模擬面接」では就職対策委員会、教学委員会の先生方全員が参加され、学生を指導していただきました。



【集団模擬面接】



② 「小学校実技練習」では保健体育、美術、音楽等の関係講座の先生方、院生、体操部員に特にご尽力いただきました。



【小学校実技練習・体育】



【小学校実技練習・音楽】



【小学校実技練習・図工】

4. 進路相談室のバックアップ

小学校学習指導要領の解説、一次対策の学習会(集団面接練習)、二次説明会、論文指導、集団討議、グループワーク、プレゼン面接、中学校実技、個人面接等々の指導を教育学部の卒業生の力もお借りして行っています。



【学習指導要領の解説】



【一次対策の学習会】



【プレゼン面接】



【グループワーク】



【中学校実技・国語】



【中学校実技・技術】

学生・既卒者の 進路相談

教育学部本館1階の「進路相談室」で田口和男、高橋和子の2名が進路相談を行っています。既卒者で教師を目指しておられる方はお気軽にご連絡下さい。(来年度の学習会については、大学のホームページにも掲載します。)

月・火・水・木・金曜日の9:00～16:00 進路相談室：058-293-2208

子どもの笑顔が咲く時に

大野中学校 小野 由加里

平成12年度 美術教育講座卒業,平成14年度 美術教育専修卒業

「私は、あの時があったから、自分が変わったのだと思います。ありがとうございました。」修了式後の最後の学級活動で、そう話した子どもの笑顔は輝いていました。

教師の仕事をしていて、私がやりがいを感じる時、それは子どもの表情が輝く時です。問題が解けた時の喜びだったり、何度も練習して納得のいくボールが打てるようになった時の達成感だったり、自主学習のノートをやり遂げた時の充実感だったり、その表情はまるで花のつぼみがパッと開いた時のように眩しく、その瞬間に立ち会うことができる時が私にとって大きな喜びです。それが、教師としての活力になっています。

今年は、中学3年生の生徒と真剣勝負の毎日です。日々の授業や学校生活の中で、また、宿泊研修や体育祭・合唱祭の行事を通して、義務教育卒業と進路実現に向かって、人として集団として成長していく子どもたちとの生活はドラマの連続です。

5月の関東研修では、事前の取組から時間を守ることにこだわりました。けれど、2日目の班別研修で大失敗をしました。道に迷ってしまったり、電車を乗り間違えてしまったりして、残念ながら集合時間に間に合わない班が出てしまいました。その日の帰りのバス中で、子どもたちは泣きながら自分の気持ちを話しました。3日目の学級別研修では、江戸切り子の体験と浅草での班別散策をしました。研修前日までの努力と、昨日の仲間の涙を忘れてはいけない、そんな決意をもった表情で、散策へ出かけていきました。集合時刻の10分前、私は少しの不安と絶対にできると信じる気持ちをもって生徒を待っていました。私を見つけた最初の班が手を振りながら帰ってきました。その後も、一つ、また一つと揃って笑顔で帰ってきました。中には、走ってきたのか汗だくになっている子もいました。そんな仲間の姿を見ているからこそ、集合時刻5分前に全班が揃った時に、自然と拍手が沸き上がったのだと思います。ほんの小さなドラマかもしれませんが、子どもたちは仲間と関わりながら、相手を思いやったり、自分の気持ちを伝えたりして人と繋がることを学び、優しさや強さを身に付けていくのだと改めて実感しました。

教師は、子どもたちと喜びや感動を共有し、その成長の瞬間に携わることのできるとてもやりがいのある仕事です。私自身も毎日、子どもたちから教えられ、学び、教師として成長している途中です。同時に、一人の人間として意思をもって生きている子どもと向き合うことは本当に難しいことです。一人の人間の生き方に関わる教師という仕事の責任の重さも感じています。

中学校に初めて赴任してから11年が経ちました。「先生」と呼ばれたあの時の、どこか照れくさくも身の引き締まる思いを今も感じます。これからも、たくさんのお会いに感謝し、子どもの花が咲く瞬間を逃さず温かい言葉をかけることができる教師を目指して、努力していきたいです。



ふるさとの未来を担う子どもたち

白川村立白川郷学園白川小学校 近藤 真弘

平成7年度 保健体育学科卒業

私が白川村に赴任して3年になります。赴任した平成23年度に、旧平瀬小学校と旧白川小学校が統合し、新白川小学校(小中一貫校)としてスタートした新しい学校です。現在は白川郷学園として、「どの子ども」「はじめに子どもありき」の共通理念のもと、小中全教職員が丸となって、児童生徒の指導にあたっています。本学園は、地域との結びつきが強く、地域からの大きな期待を強く感じます。様々な場面で、村全体で子どもたちを育てているような雰囲気も伝わってきます。白川村の子どもたちは、地域の全ての方に、自分の子どものように宝として育てられているのです。

そのような子どもたちに力を付けるために、地域の方のニーズに応えるために、私にできることは何か。白川村には、世界遺産「白川郷合掌造り集落」や「どぶろく祭り」など、地域の教育資源がたくさんあります。子どもたちや地域の方との関わりを通して、これらの教育資源から、歴史や文化、それを支えた人々について学ぶ授業を行うことが、白川村の未来を担う子どもたちを育てることにつながると考えました。ふるさと教育の重要性は、岐阜県の教育ビジョンにも示されており、「自立力」「共生力」「自己実現力」の3つの力をはぐくみ、豊かで活力ある地域づくりに貢献できる「地域社会人」を育成することを基本理念として掲げています。

このようなことを踏まえ、昨年度は「合掌造り家屋を造る」「民謡『こだいじん』を継承する」等の、白川村を題材にした実践を行いました。「合掌造り家屋を造る」では、合掌造り家屋を造ることを通して伝統技術を学び、完成したときの達成感や喜びを味わい、仲間と協同して活動することの大切さ(結の精神)を感じることができました。また、全ての児童が、合掌造り家屋の素晴らしさを、観光客や後世に伝えていきたいという思いをもつことができました。「民謡『こだいじん』を継承する」では、地域の方を講師に招いて練習を行い、小中合同の運動会・体育祭で、児童生徒と地域の方が一緒になって踊りました。民謡保存会の方は、「地域の子どもたち全員が伝統の踊りを舞っている姿には、こみ上げてくるものがあつた」と語ってみえました。地域の方が児童生徒への指導を通して、地域の文化を継承することの喜びや大切さを実感したり、地域で地域の子どもたちを育てる意識を高めたりすることもできました。

保護者はもちろん、どの地域でも、未来を担う子どもたちへの期待は大きいものがあります。教師は、その子どもたちを育てているのです。教師にとって、子どもとの生活は何十年とある教師生活のうちのほんの一部かもしれませんが、子どもにとっては一生のうちに一度しかない大切な時なのです。そう考えると、教師の責任の重さをとても感じます。小学校1年生から中学校3年生までの9年間に、子どもは驚くほど成長します。教師として、子どもが成長するすてきな時間を共有することができることに幸せを感じます。そんな大切な子どもたちだからこそ、私は今、自分ができることを精一杯やりたいと思います。



退職された教員のご紹介

平成 25 年 3 月 31 日をもって、
退職された教員は次のとおりです。

伊東 久之	教授	社会 (史学)
杉原 利治	教授	家政教育
長野 宏子	教授	家政教育
小山 徹	教授	教職大学院 ※平成 25 年 4 月 1 日より 特任教授 (教職課程支援室)
小井土 由光	教授	理科 (地学) ※平成 25 年 4 月 1 日より 特任教授 (教職課程支援室)
大杉 昭英	教授	社会科 (法経)
藤原 守	准教授	理科 (物理)
原田 信之	准教授	教職大学院
藤本 十美夫	特任教授	教職大学院
冲中 紀男	特任教授	教職大学院
山本 譲	特任教授	教職大学院 ※平成 24 年 12 月より 大垣市教育長

新しく着任された教員のご紹介

平成 25 年 4 月 1 日付けで、
着任された教員は次の通りです。

辻本 諭	助教	社会 (史学)
久保 倫子	助教	社会 (地理学)
河崎 哲嗣	准教授	数学教育
中村 琢	助教	理科 (物理)
萩原 宏明	助教	理科 (化学)
三尾 寛次	教授	教職大学院
後藤 信義	特任教授	教職大学院
伊藤 正夫	特任教授	教職大学院

会員のみなさま
同窓会員専用システムに
ログインしてみましたか???

平成 25 年 4 月から運用開始した会員専用システムをご利用いただいていますか?

まだ、一度もご利用されていない方は、この機会に是非一度ログインして、ご自分の登録内容をご覧ください。また、現在、登録者数 30,310 名中 4,179 名の方が不明会員となっています。事務局への情報提供にご協力ください。

会員 ID / パスワード再発行について

平成 25 年 4 月に会員システムにログインするための ID / パスワードを郵送配布いたしました。何らかの理由で届かなかったり、使いたいけど忘れてしまったなどがございましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。

現在、準会員 (学生・院生) の皆様へ

平成 25 年度中に、同窓会準会員の皆様にも ID / パスワードを発行させていただきます。今後は、在学中には自分の個人情報の自己管理ができます。また卒業・修了後に正会員になりますと、不明者リストの閲覧やウェブ版同窓会名簿で会員の検索や情報の閲覧ができるようになります。

《同窓会費を未納の方》

卒業・修了 まで是非お支払下さい。未納のまま、卒業・修了されると、システムのご利用はできなくなります。事務局までご連絡下さい。

個人情報の自己管理

情報ごとに公開対象を設定

- インターネット上で ID とパスワードを入力しログインする。
- ご自分の登録情報をチェックできます。
- 住所変更などの個人情報を自己管理できます。
- 情報の公開対象も自己設定できます。

現住所不明者リストの掲載

- リアルタイムに現住所不明者リストを掲載します。
- 参照は会員限定になります。
- 友人から事務局へ情報提供が随時できます。

ウェブ版同窓会名簿

- 常に最新のデータが閲覧できます。
- 同窓生の検索が簡単にできます。
- 本人が公開許可した情報の閲覧ができます。

安全の仕組み

- ① テキストデータの取り出しはできません。
- ② 閲覧者と被閲覧者の記録を残しています。

各学科同窓会の活動

国語 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 小島 光太郎)

今年度から役割を引き継ぎました、小島光太郎と申します。前任者から同窓会名簿作成の業務を引き継ぎ、少しずつ進めていきたいと考えています。

今後ともよろしくお願ひ致します。

史学 (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 平野 孝雄)

【期日】平成25年8月17日(土)

【場所】グランヴェール岐阜

【内容】

- ①総会
会長挨拶、事業報告・計画、会計報告
- ②講演「笠松町の歴史と資料館の役割」
講師 高木 敏彦先生(笠松町歴史民俗資料館 館長)
- ③懇親会



地理 (事務局 海津市立城南中学校 坂口 亨)

(1) 第39回同窓会「濃飛の集い」

第45回生(代表 八木 宗成)が担当

【期日】平成25年8月3日(土) 13時～

【会場】美濃加茂市太田宿 中山道会館

①総会

- ・開会あいさつ
- ・実行委員(45回生)あいさつ
- ・恩師の先生方のお話
- ・参加者の紹介
- ・次期実行委員(46回生)あいさつ
- ・諸連絡
- ・閉会あいさつ

②講演会(14:00～16:00)

演題 「太田宿のまちづくり」

講師 特定非営利活動法人 宿木(やどりぎ)理事長 佐光 重廣様

・太田宿の歴史や太田宿の文化を守りながらつなげていく取組について紹介していただいたり、巡検に出かけて現場で説明をしていただいたりしてとても有意義な会となった。

(2) 次回活動予定 平成26年8月2日(土)

第46回生が担当(代表未定)

法経 (事務局 羽島市教育委員会 教育支援センター 丸山 靖生)

学科として、総会等の定期的な活動は行っておりませんが、学年や所属地域ごとに連絡を取り合ったり、教科研究会での実践交流を通して連携を深めたりしています。

哲学 (事務局 飛騨教育事務所 教育支援課 田中 明)

定期的な活動が実施できておらず、関係の方々にはご迷惑とご心配をおかけしております。

様々なご案内等を行うために、会員管理システムを活用し、同窓会名簿の作成を進めております。今後ともよろしくお願ひいたします。

数学 (事務局 岐阜市立長良西小学校 森 誠)

(1) 総会

【開催日】平成25年5月18日(土)

【会場】岐阜大学教育学部 本館7階 第1会議室

【講演】岐阜県教育委員会 学校支援課課長補佐兼総合支援係長
渡邊 勝敏 先生

【研究会】発表者 岐阜市立長良西小学校 前川 真行 教諭
岐阜大学附属中学校 小川 達也 教諭

当日は、岐阜大学の岩田恵司名誉教授、山田雅博准教授にも参加していただくことができ、約60名の会員の方と共に充実した研究会を行った。

会の終了後、会員同士の親睦を深めるために懇親会を行った。

(2) 本年度の活動計画

○同窓会名簿「わしょう」の作成

本年度は同窓会名簿の改訂・発行の年度にあたり、今年度中に会員に名簿を発送する。(運営委員会開催と改訂作業)

○数学科卒業予定者に対する説明会

数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。(平成26年2月予定)

○来年度以降の計画立案

運営委員会を行い、来年度以降の計画を立案する。(平成26年3月予定)



物理 (事務局 関市立武儀中学校 奥田 好紀)

学科として、総会等の定期的な活動は行っておりませんが、学年ごとに連携を深めています。

各学年の情報等、事務局までお知らせいただくとありがたいです。また、同窓会名簿の修正等につきましても、情報をお知らせください。よろしくお願います。

化学 (事務局 岐阜県教育委員会 学校支援課 白木 和雄)

◇同窓会運営

- ・平成25年8月4日(日) 運営委員会
- ・平成25年11月 同窓会会報「かんきせん」第26号発行予定
- ・平成26年3月下旬 運営委員会

◇研究会活動

- ・岐阜かがく教育研究会の活動
毎月1回、10名ほどの会員が岐阜大学教育学部附属学校に集まり、指導案の検討や教材開発・実験などを行い、幅広く学び合っている。
平成25年12月末 実践発表会(岐阜大学教育学部附属学校)開催予定
同日 総会・懇親会(グランヴェール岐山)開催予定

◇現役学生との交流活動

毎年2月に行われる「大学卒業論文・大学院修士論文発表会」に同窓会員も数名参加し、学問研究に触れたり、教育現場の立場からアドバイスしたりしている。

「送別会(追いコン)」にも参加し、学生と教員・産業界等の同窓生との交流を深めている。



生物 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 横井 大輔)

(1) 理事会 年3回

機関誌「岐阜の生物」の編集方針検討、名簿校正作業、機関誌・名簿発送作業などを行っている。

今年度は

- ①平成25年1月26日に機関誌「岐阜の生物」No27の発送作業をおこなった。
- ②平成25年7月6日に機関誌「岐阜の生物」No28の編集方針を決定した。
- ③平成26年1月に機関誌「岐阜の生物」No28の発送作業を予定している。

(2) 機関誌「岐阜の生物」

毎年1月に発刊、全会員に郵送している。(本年度は第28号を発刊の予定)

(3) 本年度より、生物科有志による濃飛生物研究会を立ち上げ、活動を行っている。

- ①平成25年5月19日 小鳥峠、ひるがの高原散策、動植物の観察
- ②平成25年7月21日 天生湿原散策、動植物の観察

地学 (事務局 岐阜市立長良中学校 武藤 正典)

(1) 同窓会活動

◇小井土由光教授 最終講義&退官記念パーティー

【期日】平成25年2月9日(日)

【会場】岐阜大学



(2) 研究会活動

◇地学年末研修会

【期日】平成25年12月29日(土)

【会場】石金

【内容】実践発表, 研究会, 懇親会, 実践交流会, 懇親会など



音楽 (事務局 羽土 聡)

(1) 理事会の開催 平成25年6月16日(日) 10:00-11:30

- ・本部役員の改選について
会長, 理事長, 事務局長等が改選となり, 棚橋新会長をはじめ, 新たな音楽学科・音楽教育講座同窓会本部役員が決定しました。
- ・第16回総会及び懇親会について

(2) 第16回総会及び懇親会の開催

- ・日 時:平成25年11月17日(日) 11:00-14:30
- ・場 所:グランヴェール岐山
3年に一度の同窓会を実施しました。今回も、多くの恩師の先生をお招きし、ふれあいが深まる会となりました。

(3) 同窓会会報「間」41号の発行

- ・新旧会長あいさつ, 研究室代表 讃岐 京子 教授による研究室だより, 事務局だより, 新理事・新入会員の紹介, 恩師や会員の声を掲載しました。

本同窓会は、会員数が1,103人(物故者含む)となり、ますますお互いの絆を深めることの難しさや大切さを感じております。

美術 (事務局 岐阜市立青山中学校 澤田 恵)

平成25年度美術工芸学科同窓会評議委員会が、8月10日(土)に岐阜市立青山中学校にて開催された。主な議題は以下の通りである。

- ① 平成27年度 図工美術全国大会に向けての協力
- ② 同窓会展の開催。記念誌の発行
- ③ 岐阜大学教育学部美術教育講座の現状
- ④ 各地区、各年次の活動の交流
- ⑤ 会計報告・規約改正

岐阜大学教育学部美術工芸学科同窓会ブログ「ぎふ美術の風」が平成22年度に開設し、3年目になる。主に各地区で活躍する同窓会員のグループ展・個展・公募展等への出品、会員の出版物、スケッチ紀行、美術館紀行等が紹介されている。

また、第62回岐阜大学教育学部美術教育講座 卒業・修了制作展/第7回在学生作品展が平成26年2月18日(火)~23日(日)岐阜県美術館で開催されます。ご高覧よろしく申し上げます。



体育 (事務局 羽島市立竹鼻小学校 花村 重男)

(1) 総会、還暦祝いの会及び懇親会

【期日】平成24年6月9日(土) 出席者 82名

【会場】ホテルグランヴェール岐山

【総会内容】

- ① 新入会員(18名)と物故者(4名)の報告
- ② 23年度会務、事業報告、会計報告及び会計監査報告
- ③ 24年度事業計画及び予算案の承認
- ④ 大学の近況報告

(2) 事業の内容

- ① 平成24年1月から6月の間に役員会を2回、常任理事会を1回開催して各種の事業について検討した。
- ② 在学生優秀選手の選出を行い、2月5日に表彰した。
対象者24名に表彰状及びメダルを授与した。(役員3名出席)
- ③ 3月24日に新入会員の入会式を開催した。(役員3名出席)

(3) 川岸與志男先生のご勇退を祝う会

平成23年度をもってご退官された川岸與志男教授の記念講演及びお祝いパーティーを行った。

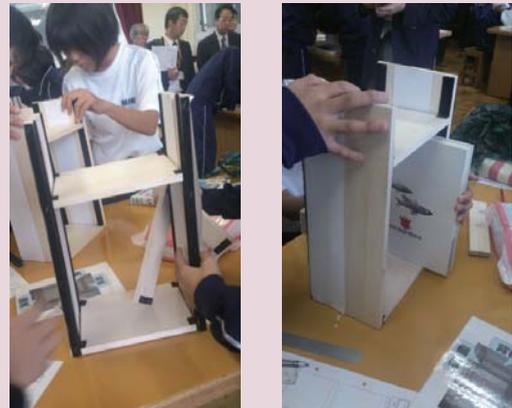
【期日】平成24年12月8日(土)出席者58名、記念品賛同者141名

【会場】ホテルグランヴェール岐山

※次回の「総会、還暦祝いの会及び懇親会」は、平成26年6月14日(土)を予定。

技術・職業 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 佐野 巧)

- (1) 第28回岐阜県中学校技術・家庭科研究大会 美濃大会 [岐阜県小中学校教育研究会 中学校技術・家庭科部会 主催]の様子。
平成25年10月23日(水)美濃市立美濃中学校で開催された技術分野の授業の様子をお知らせします。



この研究部会には多くの本学科の卒業生が所属され、子どもたちの生活の実践力が高まるようにと研究に励んでおられます。今後とも、ご支援・ご指導賜りますようお願いいたします。

- (2) 平成26年度秋に「岐阜大学教育学部 技術・職業学科同窓会 総会」を開催する予定です。

この同窓会総会は3年に一度行われるもので、平成26年度は東濃地区が会場となります。(前回平成23年度は岐阜地区が会場で行われ、次回、平成29年度は岐阜地区が会場です。)

総会開催にあたり、同年度7月頃「役員会」を行い、東濃地区の理事の方々のご協力をいただきながら総会日時や日程、内容を決定します。当該役員の方々には改めて連絡をさせていただきますので、ご理解とご協力をお願いします。

また、同窓会 会員の方々には開催1カ月前を目安に案内を送付させていただきますので、内容を確認の上、ご出席、ご欠席の連絡をお願いします。

ご不明な点などがありましたら、同窓会事務局までお問い合わせください。ご理解とご協力をよろしく申し上げます。

家政 (事務局 坪井春美)

(1) 平成25年度の活動

- ・ 会員の現況調査
名簿管理のため、年次代表の方に依頼し、会員の現況調査を行いました。

(2) 今後の活動

- ① 同窓会総会
5年に一度開催します総会を、平成26年8月10日(日)に予定しています。是非、ご参加ください。
- ② 年次代表者会
同窓会総会の開催に伴い、年次代表者、役員、世話役が集まり、活動の方向や総会の内容について検討します。
平成26年4月19日(土)に開催予定ですので、年次代表者の方はご出席をお願いします。
- ③ 同窓会名簿
総会のある年に作成し、参加者と希望者に配布予定です。

(3) その他

- ・ 毎年5月頃に、年次代表者を通じて名簿の確認を行いますので、ご協力をお願いします。

- (1) 平成25年2月3日(日), グランヴェール岐山において10時より『平成24年度 岐阜大学教育学部英語英文学科・英語教育学科同窓会』が行われましたので報告いたします。内容は以下の通りです。
- ①会務報告
 - ②会計監査
 - ③役員改選
 - ④旧役員挨拶・新会長挨拶・新役員紹介
 - ⑤講演会(講師: 聖徳学園大学 加納 幹雄様)
 - ⑥懇親会
- (2) 今後の活動について
- 3年ごとに総会の開催をいたします。また、会員の住所変更があった場合は、3年後の評議会でご評議委員が書記に連絡していただきますようお願いいたします。

平成25年3月9日(土)の午後, グランヴェール岐山において, 学科同窓会を行いました。2年に1度の開催ということで, 案内を心待ちにいただいている先輩方も多く駆けつけていただき, 盛会となりました。今回の実践発表は, 特別支援教育(治療教育)担当ということで, 昨春, 卒業したばかりの酒井智子教諭(郡上特別支援学校教諭)にお願いしました。「特別支援学校児童生徒の家庭学習に関する研究」について, 保護者の意識調査をふまえて, 教師側のとらえとずれがあることを問題提起した興味深い内容でした。その後, 岐阜大学名誉教授である三牧孝至先生(寺田ガーデン施設長)によるオカリナ演奏と脳の働きに関するミニトークを聞かせていただきました。伴奏者の松野さんとの絶妙な掛け合いの中, 優しい調べに心癒され, かつ, 最新の脳科学の情報も得ることができ, 参加者は大満足でした。その後, 懇親会では, 教育学科創立時の同窓生の方よりお話を聞くなど, 歴史を紐解く素敵な会となりました。次回は, 平成26年度開催となります。

平成25年度 各学科同窓会事務局

講座名	学科	所在地		担当者	電話
国語教育	国語	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	小島光太郎 058-271-0320
社会科教育	史学	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属小学校	平野 孝雄 058-271-3545
	地理	〒503-0413	海津市南濃町羽沢 1050	海津市立城南中学校	坂口 亨 0584-55-0039
	法経	〒501-6241	羽島市竹鼻町 226-2	羽島市教育委員会 教育支援センター	丸山 靖生 058-393-4616
数学教育	哲学	〒506-8688	高山市上岡本町 7-468	飛騨教育事務所 教育支援課	田中 明 0577-33-1111
	数学	〒502-0832	岐阜市千代田町 2 丁目	岐阜市立長良西小学校	森 誠 058-232-5222
理科教育	物理	〒501-3511	関市中之保 5700-5	関市立武儀中学校	奥田 好紀 0575-49-3062
	化学	〒500-8570	岐阜市数田南 2-1-1	岐阜県教育委員会 学校支援課	白木 和雄 058-272-1111
	生物	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	横井 大輔 058-271-0320
	地学	〒502-0817	岐阜市長良福光 2070	岐阜市立長良中学校	武藤 正典 058-231-7207
音楽教育	音楽	〒501-4222	郡上市八幡町島谷 130-1	郡上市教育委員会 学校教育課	羽土 聡 0575-67-1468
美術教育	美術	〒502-0858	岐阜市下土居 2 丁目 27-1	岐阜市立青山中学校	澤田 恵 058-294-1555
保健体育	体育	〒501-6241	羽島市竹鼻町 1295	羽島市立竹鼻小学校	花村 重男 058-392-3000
技術教育	技職	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	佐野 巧 058-271-0320
家政教育	家政				坪井 春美
英語教育	英語	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	水崎 綾香 058-271-0320
学校教育	教育				安田 和夫

● 編集後記 ●

明治5年の学制発布によって全国に小学校が設立され, それに伴って教員養成も始まりました。この時期に岐阜大学教育学部の前身である師範研習学校が開校し, 現在は創立140年を迎えています。柳戸キャンパスも, 30年の歴史があります。長良からの移転時に植樹をした木は, 時を経て驚くほど大きく生長しています。教育学部の歴史は, 岐阜大学の歴史よりも長く, 師範学校・青年師範学校・女子師範学校・学芸学部の名称が使われていました。柳戸以前の所在地は, 長良・加納, 垂井町等でした。昔の校舎や校門の写真を見ると, 風格のある立派な建物であったことが理解できます。年月とともに風景が変わり, どの場所かわからない写真もあります。けれども, いつの時代にも, 学生の皆さんの青春の日々があったことには変わりはありません。多くの友人や知人との交流も行われていたことでしょう。岐阜大学教育学部の輝かしい伝統と実績を礎にして, 大学はもとより各地の学校や地域においても, 教育と研究が今後とも進展し続けることを願っています。

(広報部会 辻 泰秀)

お便り・情報を募集

皆様の近況報告, 紙面への掲載希望・クラス会・OB会の報告など何でも結構です。お気軽に同窓会事務局までお寄せください。

岐阜大学同窓会報第19号

発行日 / 平成25年12月発行
 発行者 / 後藤 忠喜
 発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
 TEL. 058-293-2344 (平日10時~15時)
 FAX. 058-293-2343 (24時間)